Summary

Three floristic regions of the Tohoku District or northern Honshu of Japan are proposed in the present paper. They are Japan Sea, Kanto, and Kitakami floristic regions (Fig. 1). The Japan Sea and Kanto floristic regions have usually been recognized in the Tohoku District in previous phytogeographical studies, but Kitakami floristic region is newly circumscribed as a new floristic region on the basis of her both endemic and characteristic taxa. The latter contains many Japan Sea elements in the region and disjunctively distributed plants between Kitakami mountain region and Hokkaido or central Honshu mountain regions. (東北大学 理学部生物学教室 Biological Institute, Faculty of Science, Tohoku University, Sendai 980)

□横内　斎：**草木寸景　横内斎著作集 2**　301 pp. 1986.「横内斎著作集」刊行会，長野県東筑摩郡四賀村会田 517. ¥2, 300. 1980 年に亡くなられた著者の遺族によって刊行されている著作集の第二号である。内容は山岳夜話，信州植物寸景，高山植物見聞録，信州植物概説，ウェストン師のサイン，植物珍名集の部にわかれ，各誌に書かれた文章が集成され，それぞれ出典がつけられている。フロラの調査は過去と現在を比較する必要があるので，このように得難い文献の集成はたいへん有用である。　(金井弘夫)

□浜田善利 (監修)，「熊本の木と花」編集委員会 (編)：**熊本の木と花**(図鑑シリーズ 4) 308 pp. 1987. 熊本日々新聞社，熊本. ¥2, 800. さきに紹介した「熊本の野草」のシリーズである。県所産の木本植物が，低い山の木，高い山の木，マツ・スギの仲間，タケ・ササの仲間に分けて，カラー写真で示されている。一頁一種で上部に写真，下部に解説がある。一般向きに喜ばれそうな本である。色彩は美しいが，たとえばナワシログミやサルトリイバラの果実などのように，ところどころ強調されすぎているのではないかと気になるものもある。植物は同じ種でも地域によって微妙な違いがあるから，なるべくありのままの色をだすことがのぞましい。それが原色図鑑の生命である。地域的なちがいといえば，ヒサカキの花が濃い桃色をしているが，熊本でこれが普通だとすれば，関東の者にとってはずい分違う感じがする。説明には「花は白色」とあるので，写真の方が特殊なのだろうか? 頁下縁に県内を 8 地区に分けて，その種の産する地区が示されているが，よそ者にとっては直感が働かないのでピンとこない。13頁にある地図にこの地区分けが明瞭に図示されているとよい。　(金井弘夫)